

暖房完備、鉄筋三階建

留萌小 道内二番目に大きい学校



待望の留萌小学校舎が、本年春から三カ年計画で進められ暖房完備、しかも港北小学校の半分も合わせたほどの大きな鉄筋三階建校舎を建設する計画が進められます。各階に水洗便所のほか児童会議室もあるりっぱなものにしようとの計画です。

本年春から3カ年計画で改築

北海道では三番目という大きな校舎として、留萌小学校舎の改築計画が、春を待つて進められます。この計画は、昭和四十三年から昭和四十五年までの三カ年計画で、鉄筋コンクリート三階建の校舎を建設しようというものです。計画の新しい校舎は、現在のグラウンド一ぱいに、口の字形に建設が予定され、春からは整地が本格的に行なわれるため、グラウンドは使えなくなりません。鉄筋コンクリート三階建の校舎は、市内では初めてのものです。さらにその大きさは、北海道でも三番目という大きいです。つまり、現在の校舎より大きく、市内にある港北小学校の校舎が、約三校とくらに半分位入る大きなもので、これは、完成する時には生徒が少なくなるとはいえ普通教室三十六教室を持つ学校のためです。現在の留萌小学校舎は明治から昭和初期にかけて建てられたもので、ほとんど全部が危険校舎とされてきたのですが、学校教育の地域格差をなくするという方針で、市内の農漁村地域の学校を優先的に改築を

進め、各校とも一段落ついたので、本年春から留萌小学校の改築に着工しようというものです。計画によると、新校舎は普通教室三十六教室のほか特殊学級教室二、さらに理科教室二、音楽室二、視聴覚教室、家庭科教室、図書室、保健室、工作室、図書室、それに、児童会議室、資料室、放送室、校長室、会議室、職員室などを持つりっぱなもの。地下にはボイラー室を作り、各教室とも暖房完備、各階には、水のみば、便所なども設けられます。とくに、最終年度に建てられる屋内体育館は、パレールコート二面がとれるだけの広さを持ち、市内各小学校の屋内体育館が二、三つ合わせたほどの大きさです。生徒数の急増から、玄関のほか、特別教室まで普通教室にあてている現状だけに、子供たちがばかりでなく父兄などからその完成が待たれています。なお、この建設には、多額の工事費が必要ですのでその資金メドを合わせて工事が進められることになり

新入学児を持つご家庭に

新しく小学校に入学するお子さんをお持ちのご家庭では、なにかと気をつかっていることと思います。入学前のご家庭など、いろいろ心配なことも多いと思いますが、次のことがらを心がけてください。①自分の身のまわりのこと、自分で始末できるようにする。②交通のきまりを覚えさせようとして安全に通学できるようにする。③「五十音」の正しい発音が出来、文字は自分や家族の名前をひらがなで読み書きできる程度にする。④丈夫で実用的な、子どもに使いやすいものを、最少限度に準備し、その他は入学後必要に応じてそろえる。



1月15日に産業会館で成人式 約800名に祝福を

ことしの成人式は、1月15日午前9時30分から、市内錦町の産業会館で行なわれます。ことし成人式を迎えるのは、昭和22年1月16日から昭和23年1月15日までに生まれた人たち約830人です。ちょうどこの頃は、留萌町から留萌市になる時に当たり、この中には、市制施行日の昭和22年10月1日に生まれた山谷嘉彦（三泊）太刀川和一（幸町）佐藤ヤス子（

錦町）山本優子（本町）さんたち4人もいます。成人式の当日は、午前9時から受付、午前9時30分から式典などが行われ、記念品が贈られます。当日は、受付の都合でご案内のはがきを持参して下さるようお願いいたします。なお、ご案内のはがきが届かなかったり、紛失された方でも、該当者は当日会場で受け取りますのでご遠慮なくおいでください。

化学消防車も初参加

出初式で披露 近代火災に万全の備え

恒例の消防出初め式が、四日午前九時から行なわれますが、ことしは十一台の消防車、二台の消防バイクにまじって、近代的な装備をこらした。化学消防車も市中行進に参加、市民の前に登場する予定です。

この化学消防車は、最近各家庭、事業所などでの油類の使用が多くなったことそれに、石油基地の建設などで、油火災に備え、昨年十一月末に約百五十万円で購入したもので、最新式の化学消防車は、

もので、車上部にある放水銃のほか消火ホース四本、計五本で同時消火出来、しかも車が走りながら放水したり、火災に近づいて消火作業の出来るように、消防車自体を、霧でつむむ自衛噴霧装置も完備している。さらに、化学消防車の中に、水千三百リットルのほか、化学消火薬液五百リットル（油火災に効果）粉末消火剤百六十リットル（油類、電気火災に効果）を積んでおり、近代火災の早期消火に威力を発揮する。

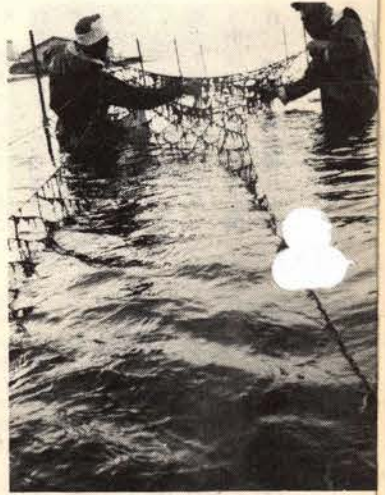


近代的な装備をこらした化学消防隊も加わって

油の火 液と水を ことが出 災防止に ても放水 切り換 えたので 近代 された 早期 には、 薬剤 台、 幌糖 元、 車が出 行進 四日

新春の香りを食卓にと

機械を導入、量産化へ



のりつむ手もはずんで

新春の香りを作るのり。礼受のり、これは、こり機械としか本格的な企業として生産が続き、市水産関係が

発に力を入れてから実に七年目、その実が結び量産化への出発をした。企業化をめざす六名の業者により、市漁協内に「のり養殖部会」が設けられ、浅草のりの種苗場で有名な福島県相馬市から、昨年の二倍にあたる四百七十反の種網を入れたが、さらに礼受町に共同処理場を建設、今まで手先で進めて来た作業を、機械化で十一月近代的な設備をした。つまり、のりつみから乾燥まで、すべて機械によって処理することになった。これによって、一反当り



機械の音も軽ろやかにのりすきが続く



網からのりをつむむのも機械で